令和6年度 土木研究所講演会

開会挨拶

理事長　藤田 光一

土木研究所の目的

土木研究所法　第3条（研究所の目的）　　※一部略

土木研究所は、建設技術及び北海道開発局の所掌事務に関連するその他の技術のうち、

土木に係るもの（以下「土木技術」という。）に関する調査、試験、研究及び開発並びに指導及び成果の普及等を行うことにより、

土木技術の向上を図り、もって良質な社会資本の効率的な整備及び北海道の開発の推進に資する

ことを目的とする。

□「人間社会が発展でき，自然の恵みを享受しながら，誰もが・それぞれの土地の自然や地理をよく理解した上での思慮深い巧みな国土の使い方を追求しながら・安心して生き生きと暮らせる社会の実現」

に向けて，地球と人間との間に“インターフェース”あるいは“クッション”を備える

➔文明が始まって以来，人類が希求すること．

□ これこそが**インフラストラクチャー　➔　それを支える技術全般が土木技術**

土木技術の根本と展開

代表例示とそこでの災害関連

根本

（「基盤」はインフラストラクチャーを指す）

- ◆交通
- ◆水資源・エネルギーの確保
- ◆自然事象を制御し災害を防ぐこと
- ◆健康で衛生的な暮らしに必須の健全な水・物質循環
- ◆基盤を確実かつ合理的に建設する技術
- ◆極端事象（強震や暴風など）への耐性を基盤に持たせる技術
- ◆自然地物の成り立ちや自然の諸システム，自然災害の起こり方を理解し，基盤建設や事象制御につなげること
- ◆基盤建設に供する材料を発掘，使用法を開拓すること

時代の要請に応えた展開

- ◆人そして生物・生態系にとって良好な環境，地域の魅力の源泉となる場を保全し調えること．
- ◆人・モノ・コト・情報の流動性を高め，人々の活力の多様な向上につながる“化学反応”を励起すること．
- ◆地球的制約（温室効果ガス排出，資源・エネルギー調達，廃棄物処理など）への対処．
- ◆地球規模の気候変動への対処．
- ◆社会的制約〔生産年齢人口の縮小，少子高齢化〕への対処．
- ◆経年インフラのマネジメント，持続可能性確保．
- ◆災害の起こり方やリスクのマネジメント．

→ 土木研究所第5期中長期目標にも

大規模・激甚な災害が起こった局面を，どのように捉えるか？

- それまでに投入されてきた土木技術の真価が広く深く様々に問われる．
  時として未経験あるいは顕在化していなかった態様を受け止めることも．
  ➔ 重いあるいは新たな技術課題を突きつけられることも珍しくない．

- 培ってきた土木技術を，被災地のために最大限生かすべき局面．
- 「土木技術を向上させる」べき，そして，その成果を「世の中を良くする」ため必要なところに広く届けるべき局面．
- 大規模災害は，社会の有り様を根本から問う契機となることがある．
  であるから場合によっては，土木技術と社会状況との関係性を捉え直し，ゆえに，**土木技術のあり方をも深く広く問い直す機会となることも**．

～災害対応における土研の目標～

令和６年３月29日

土木研究所 災害対応戦略懇談会

懇談会の目的

令和６年能登半島地震に対応した取り組みを踏まえ，改めて，
災害対応における土木研究所の目標を明確にし，共有する．
→ ここでの目標は，行動を考えるに当たっての方向性を示すもの．
→ 土研のあるべき姿を見据えて，現時点での方向性を共通認識として示すもの．

災害対応における土研の４つの目標と意識する観点

目標① 啓開、応急復旧および二次災害防止などギリギリの対応を求められる部局に対し、優先順位を含めた判断に資する技術的見解を提示できるようにする

目標② 復旧・復興に必要な土木技術に関わる要点を、極力全体像がみえるものとしてとりまとめ、必要な部局に届くようにする

災害時の研究活動における基本的な観点：

日本全体の強靭化や災害対応力強化へ貢献するために、土木研究所の研究開発や成果の最大化によって解決すべき土木技術的課題は何か？

研　究　開　発：災害派遣での技術支援や調査内容、災害実態を踏まえて、取り組むべき研究課題は何か？

成果の最大化：技術基準等に反映させるべき土木技術的課題はあるか？
災害の規模感の即時大局把握へ貢献できる技術開発が可能か？

災害の技術的見解のとりまとめにおいて、意識する観点：
〇被災地の社会的状況を考慮し、復興のあり方や、その際に投じられるべき土木技術まで盛り込めるか？

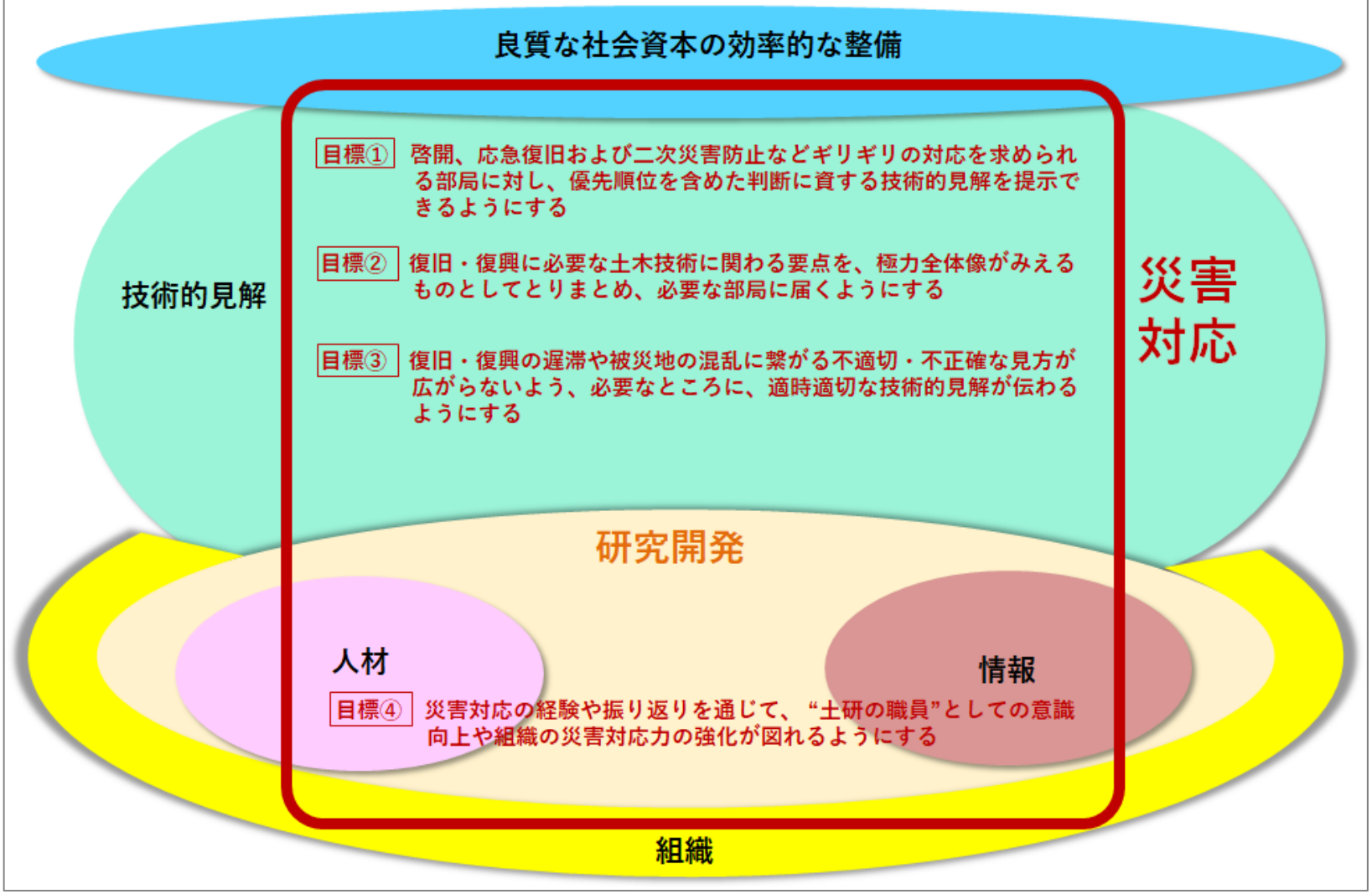
目標③ 復旧・復興の遅滞や被災地の混乱に繋がる不適切・不正確な見方が広がらないよう、必要なところに、適時適切な技術的見解が伝わるようにする

災害時の情報発信において意識する観点：
〇大規模災害を克服する日本の土木技術力の水準を示し、国際的に正当な理解と評価を得るために、土木研究所は何かできるか？

目標④ 災害対応の経験や振り返りを通じて、“土研の職員”としての意識向上や組織の災害対応力の強化が図れるようにする

※この目標は、土木研究所は信頼できる組織であると、関係機関や国民に認識されていることが前提である

土研と社会の関係性
-災害対応における土研の目標-



藤田光一；津波防災地域づくりの発進を「技術」がどう支えたか，
雑誌「海岸」，巻頭言，第55巻，2018
から

使命感

真摯さ

越境

地道な取り組みの蓄積 ＋ 思慮深さを併せもった総合的な瞬発力

事前　　事後

これからの国土，地域

本日の講演会が
皆様にとって有意義なものとなれば
誠に幸いです．